

船井情報科学振興財団 第1回報告書 2017年6月

留学先決定に至るまでの経緯

辻 琴音

【はじめに】

2017年9月から Brown University に学部生として留学することになりました辻琴音と申します。Biomedical Engineering をはじめとして、Biology、Aerospace Medicine に興味を持っており、これらの分野を中心とした科を専攻したいと考えています。本報告書では、留学先決定に至るまでの経緯についてご報告致します。

【出願までの経緯】

私は両親の仕事の都合で5歳の時アメリカに引越し、9年生を終了した15歳までの10年間アメリカの地元の学校に通っていました。高校1年の夏に帰国し、桐光学園高等学校に転入し、昨年の3月に同校を卒業しました。

高校3年の時はアメリカの大学は学費が非常に高いという印象が強く、親との相談の上日本の大学受験のみに集中することにしていました。3月には日本の大学が不合格であったことがわかり、翌年の日本の大学を再度目指し勉強を始めていました。そんな折、6月にアメリカに行く機会があり、その際アメリカの大学を何校か訪問することができました。日米の大学の長所短所を考えるきっかけとなり、アメリカの大学に進学したいとの気持ちが強くなりました。帰国後、アメリカの大学のことを調べ、4年間の学部留学における大学や財団からの奨学金があることを知り、日本とアメリカの両方の大学を受験することを決めました。

【アメリカ学部留学の理由】

主に以下の理由でアメリカの大学を受験することになりました。

- 興味分野における最新の知識に接する機会

私の興味がある、Biomedical Engineering、Biology、Aerospace Medicineの領域ではアメリカが世界の最先端を走っており、教育の分野でも最新の知識が教えられています。研究者の層が厚く、日常的にレベルの高い学会、研究会が行われているため、一流の研究者の話を専門でない人も直接聞きに行ける機会が多くなっています。

- モチベーションを高く保つことができる環境

アメリカの大学では世界中から色々なバックグラウンドを持った優秀な人々が集まっています。元々能力の高い人々が集まっている上に、国の代表としての自覚があり、非常に熱心に学習、研究を行っています。また、アメリカでは友人や先生と前向きな議論が盛んに行われており、非常に刺激になります。科目に関わらず、新しい知識を得ることに目を輝かせて話を聞いている人々に囲まれて勉強できる環境に私はとても惹かれました。

- 自由度の高い教育システム

アメリカでは専攻したいと考えている分野以外にも、複数の分野について深く学ぶことが可能となっています。また、アメリカでは学部生の時に研究室で第一線の研究に触れることや、ハイレベルのアイスホッケーやオーケストラなどのアクティビティーに参加するなど、授業外の自分の趣味との両立が比較的しやすくなっています。

【出願材料】

アメリカの大学に学部留学生として出願する際に必要なものは日本の大学受験に必要な準備と大きく異なります。

- 高校の学業成績

成績は大学によって重視するかしらないかは異なると思います。州立大学など生徒の数が多き大学は基準に満たしていないと、即カットする場合もあると聞きます。私は9年生の時4.0/4.0、桐光学園高等学校では日本語で若干手こずったため、3年間の平均が4.4/5.0、とアメリカの高校四年間に換算すると平均GPA 3.6/4.0、ととても高いとは言えない成績でした。

- 高校のクラスランク

海外の生徒の場合、高校の学業成績基準がアメリカの高校のものと違うことが多いため、その高校の環境で上位何パーセントに配置しているかが重要となっていると思います。私は最終的に560人の生徒の中7位であったため、トップの10%に入ることはできました。

- 課外活動

アメリカの大学は、学業だけでなく幅広い分野の課外活動でも活躍している生徒を好みます。躊躇せずにできるだけ自分の実績をアピールすることが大事だと思います。

- 推薦状

通常、高校のカウンセラーまたはホームルームの先生から1通と主科目の先生から2通の合計3通の推薦状が要求されました。大学によってはその他にオプションで推薦状を追加提出することが可能であり、私はインターンさせて頂いているエンジニアリング会社先の方に1通お願いしました。受験者の多くが本格的な研究実績がないため、自分の人間性や学問に対しての姿勢を評価してくれる先生にお願いするのがいいと思います。

- ACT/SAT

共に言語能力と数学的思考力が問われる共通試験です。何回受けても良い試験なので、一番良い点数を出願できます。逆に言えば、これらの試験は日本の入試形式と違い、一点を競うものではありません。私はアメリカ大学受験の決意が遅かったため、ACT を 9 月、SAT Subject を 10 月、SAT を 11 月とギリギリの受験となってしまいました。大学によっては高校卒業前の試験しか受け取らないところがあったのでなるべく早めに受験することをお勧めします。結果、ACT 34 / 36、SAT Subject 800 / 800 と 770 / 800、SAT 1520 / 1600、となりました。

- TOEFL

外国人学部留学生は英語の学力を証明するものとして TOEFL または IELTS を出願しなければいけません。TOEFL の場合、100/120 点以上あればトップスクールの基準を満たすことができます。基準に達していれば点数の高い低いは全く関係ありません。私の成績は 115 / 120 でした。

- エッセイ

受験で一番時間を費やした部分であると共に出願材料の中で最も重要な項目だと思います。大学出願エッセイは特有のスタイルがあるので書くのにとっても苦勞しました。題目に対して自分の意見を端的に述べるのではなく、自分の主張と一致する経験談をストーリー形式で表現することが求められました。一つの題目に対してなるべく多くのエッセイを書き、一番気に入ったものを提出するようにしました。また、なるべく多くの方に見てもらい、意見をもらうようにすることがいいと思います。

- 面接

私の出願校の内、面接のある大学は半分程でした。多くはオプションで、英語による面接でしたが、日本のカフェで行われ、非常にカジュアルなスタイルでした。全ての大学を訪問するのが困難な海外からの受験生にとって面接は逆に学校の雰囲気を知る場ともなると思いました。

【出願のタイムテーブル】

私のアメリカの大学受験の時系列を簡単にリスト致します。

7月

高校に推薦状や学業成績をお願いする

TOEFL 受験

Funai Overseas Scholarship 出願

8月

Funai Overseas Scholarship 面接

9月

Funai Overseas Scholarship 合格通知

ACT 受験

10月

SAT Subject 受験

州立大学1校を Early Action で出願

Common Application (全大学共通願書) 提出

私立大学1校を Early Action で出願

11月

SAT 受験

他大学複数出願

面接

12月

Early Action の2校とも Defer の結果連絡

Brown University と他大学複数出願

1月

他大学複数出願

面接

4月

ほぼすべての大学から結果連絡

5月

大学の決定

【大学の決定】

アメリカの学部生がいる大学は大きく分けて次の 3 つのカテゴリーがあると認識しています。

- 州立大学
 - 学部生、大学院生ともに生徒数が多い
 - 基本となる専門的分野に力を入れている
 - 学費が比較的安い
 - 海外生徒に対する奨学金はあまりない
- リベラルアーツの大学
 - 学部生が主で生徒数が少ないため生徒と教授の仲が非常に良い
 - 幅広い特殊な分野を学べる
 - 学費が比較的高い
 - 海外生徒の有無に関わらず成績優秀者に対する奨学金多くあり
- 私立大学
 - 学部生、大学院生ともに生徒数が中程度
 - 学校により独自性がある
 - 学費が比較的高い
 - 海外生徒の有無に関わらず家庭の収入のみ考慮して奨学金あり

私はそれぞれ違う面で魅力を感じたため、3つのカテゴリーの大学を受験することになりました。たまたま最終的に悩んだ3校もそれぞれのカテゴリーの大学でした。最終的に **Brown University** に決定したのは、**Biomedical Engineering** の専攻があり、学部生の研究環境が整いつつ、授業に制約が全くないため、他に興味のある **Biology** と **Aerospace Medicine** の分野にも深く触れることが可能であると考えたからです。

【最後に】

船井情報科学振興財団に採択していただいたことで、大学受験を含めて、私の将来の可能性が大きく広がったと思います。アメリカの大学選択の際に重要な要素の一つである学費に対して支援をいただいたことにより、他の要素を重視して自分に合った大学を決定することができました。また、アメリカの大学受験で同じような経験をされてきた財団の先輩の方々から貴重なアドバイスをいただけたり、財団の先輩の方々から Brown University 在學生や卒業生を紹介していただけて大変参考になりました。その他にも幅広い分野で日本を代表する先輩の方々とお話をする機会もあり、金銭的な支援の他に船井情報科学振興財団に採択していただいたことで世界が広がったことを実感しました。今後とも努力を続けていくつもりでありますのでよろしく申し上げます。